平成２７年度
山口県地域福祉推進セミナー及び小地域福祉活動者の集い
～多様な主体と取り組む協働の地域づくり～
開　催　要 項

１　趣　旨

我が国は、戦後の経済成長による生活水準の向上や医療技術の進歩等により平均寿命を延伸させ、世界一位の長寿大国として位置づけられています。しかし近年、少子高齢化による人口減少、貧困の格差は拡大の一途をたどっており、私たちの暮らす地域は変容しつづけています。そして、ますます複雑・多様化する福祉ニーズへの対応は、高齢、障害、児童等対象者ごとの専門的なサービスや単独の機関による働きかけのみでは、対応しきれないケースが増えています。

こういった現状において、一人一人のニーズに寄り添った働きかけをしていくためには、住民とともに関係機関が連携し、支援の輪を拡大させていくことが求められます。

そこで本セミナーでは、社協や自治会福祉部、ＮＰＯや社会福祉法人、まちづくり団体など、多様な主体と連携した地域福祉を実現していくための手法や、高齢者や障がい者のみならず、引きこもりやひとり親家庭、薬物依存症など、幅広く課題を抱えている人々をどのように地域で受け入れていくことが出来るのかを考え、多様な主体と連携した地域福祉を実現していくための方法を学びます。

２　主　催

社会福祉法人　山口県社会福祉協議会

３　後　援（予定）

山口県、山口県民生委員児童委員協議会、山口県自治会連合会、
山口県老人クラブ連合会、山口県地域包括・在宅介護支援センター協議会、
やまぐち県民活動支援センター

４　日　時

平成２８年１月１９日（火）
午前１０時２０分から午後３時３０分まで

５　会　場

山口県総合保健会館
山口市吉敷下東３丁目１番１号　TEL　083 - 934 - 2200

６　定　員
　８００人
（会場収容人数の都合上、定員になり次第、締め切らせていただきます。）

７　参加費
　１，０００円

８　対　象
　市町社会福祉協議会役職員、ボランティアコーディネーター、県市町行政職員、地区社会福祉協議会役職員、民生委員・児童委員、主任児童委員、福祉員、自治会・町内会関係者、ボランティア、ＮＰＯ、施設役職員、その他地域福祉活動に興味のある方

９　日　程
プログラムの詳細については、別添「研修会プログラム」に記載しています。

９：２０	受　　付
１０：２０	開　　会
１０：３０	基調講演 「多様な主体と取り組む協働の地域づくり」 ～支援を必要としている人たちへの生活支援型支え合い活動を考える～ 講師:特定非営利活動法人日本地域福祉研究所　主任研究員 元静岡英和学院大学コミュニティ福祉学部　教授 青山　登志夫　氏
１２：００	昼食・休憩・移動
１３：００	分科会 ▽分科会１【見守り・支え合い活動】 「私たちの活動を継続していくためのヒントとは？ ～高齢化や担い手不足をこう乗り越える！！～」 ▽分科会２【身近な集う場づくり、居場所づくり】 「地域を活性化させるサロンづくり ～組織がつながり、協力と工夫でできること～」
１５：３０	閉　　会

10　参加申込書の提出

平成２８年１月８日（金）までに別添申込書に必要事項を記入し、下記宛てに郵送、FAX、メールのいずれかにてお申込みください。

※記入いただいた個人情報は、研修会の運営目的のみに使用いたします。なお、当日資料に所属先、役職名、氏名を掲載いたします。

11　分科会について

・定員の関係で、希望される分科会に参加いただくことができない場合があります。希望者多数の分科会は先着順となり、定員に達した時点で締め切らせていただきますので御了承ください。

・分科会２「身近な集う場づくり、居場所づくり」では、グループワークによる情報交換の時間を設けています。その際に、自己紹介として各自のサロン活動について簡単に紹介いただきたく思っておりますので、サロンのチラシ等作成している場合は、１０部持参いただきますようお願いいたします。

12　その他

・お弁当（お茶付き 600 円）を斡旋いたしますので、必要な方は参加申込書に記入してください。

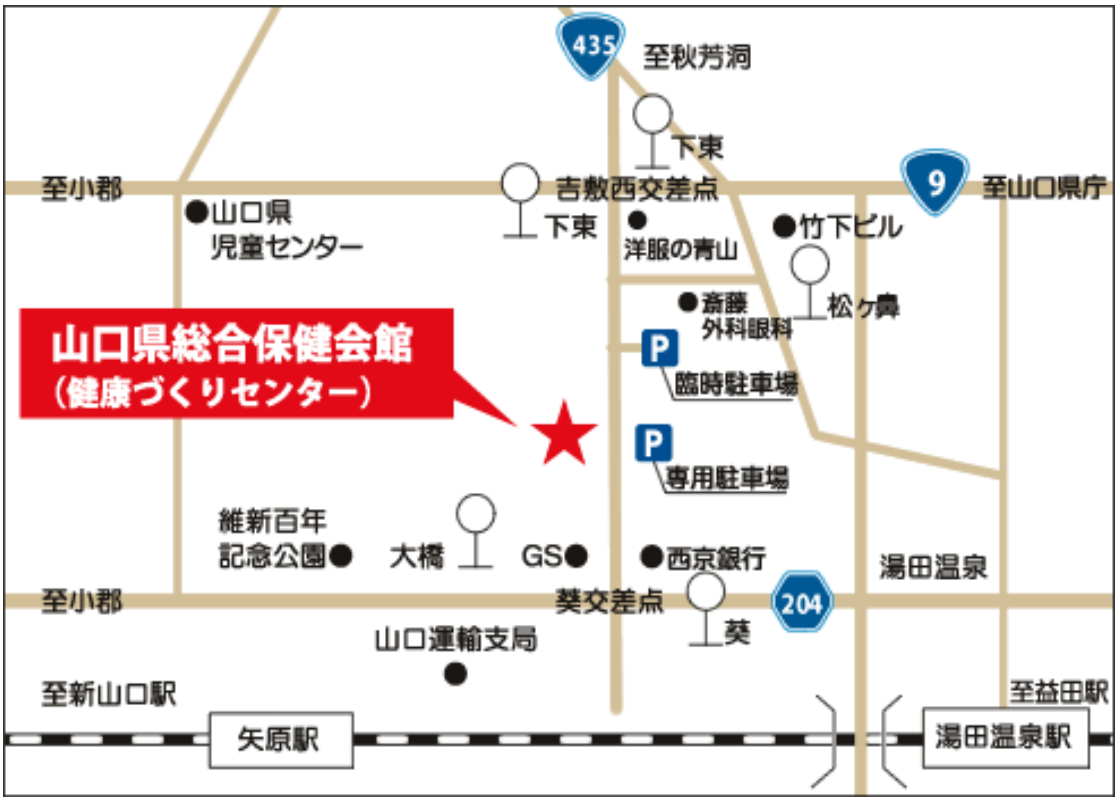
・会場内、周辺には専用駐車場がございますが、台数に限りがございますので、乗り合わせてお越しくださるようお願いします。

・本セミナー開催と同日、「平成２７年度市町ボランティア活動代表者会議」を開催します。詳細については、各市町社会福祉協議会に御案内している開催要項を御覧ください。

13　申込み・問い合わせ先

社会福祉法人　山口県社会福祉協議会
地域福祉部 地域福祉班
担当：末永、内田
〒753-0072　山口市大手町 9-6
TEL（083）924-2828　FAX（083）924-2847
e-mail　chiiki@yg-you-i-net.or.jp

【会場地図】



新幹線でお越しの方は新山口駅で下車

防長バス（山口方面行き）	大橋停留所下車(バス乗車時間約 30 分、徒歩約 5 分) ※新山口駅在来線側バス乗り場⑤番より、 湯田・山口県庁方面行きのバスに乗車
ＪＲ山口線に乗り換え（山口・益田方面行き）	矢原駅下車(JR 乗車時間約 15 分、徒歩約 25 分) 駅から約 2km ※タクシーの常駐なし
	湯田温泉駅下車(JR 乗車時間約 20 分、徒歩約 25 分) 駅から約 2km ※タクシーの常駐有り(タクシーをご利用の場合約 7 分)
タクシー	約 25 分(渋滞することがありますので余裕をもってお越しください。)

お車でお越しの方は

中国自動車道	小郡 IC から約６Km
山陽自動車道	防府東 IC から約２５Km

研修プログラム

（午前１０時２０分から正午まで）【地域福祉推進セミナー】

◆基調講演（場所:山口県総合保健会館　２階　多目的ホール　定員 800 人）

「多様な主体と取り組む協働の地域づくり」

～支援を必要としている人たちへの生活支援型支え合い活動を考える～

講師:特定非営利活動法人日本地域福祉研究所　主任研究員

元静岡英和学院大学コミュニティ福祉学部　教授　　青山　登志夫　氏

≪目的≫

住み慣れたまちで暮らし続けることができるように、地区社協や自治会福祉部、ＮＰＯや社会福祉法人、学生団体、まちづくり団体など、多様な主体が地域福祉活動に打ち込んでいる昨今、各活動主体がお互いを知り、協働・連携できる地域づくりを行うためには、どのような視点が必要となるのでしょうか。また、高齢者や障がい者のみならず、引きこもりやひとり親家庭、薬物依存症など、幅広い課題を抱えている人が身近にいる中で、私たちが行う地域福祉活動の可能性はどこまで広がっていくのでしょうか。

基調講演では、「出合い・ふれ合い型」を基盤として「生活支援型」の地域福祉活動の視点や手法を考えていきます。

✍　青山　登志夫　氏

【職歴】

１９７３年から東京都社会福祉協議会にて、区市町村社協・民生委員活動などの支援、ボランティア活動の推進、総合企画・法人経営などの部署を経て、権利擁護センター「すてっぷ」副所長を務めて２００２年退職。その後静岡英和学院大学人間社会学部地域福祉学科教授に就任。大学では地域福祉論・社会福祉権利擁護論、福祉組織経営論等を担当。２０１２年退職。同年４月日本地域福祉研究所主任研究員に就任。

専門領域は、地域福祉に関する理論と方法、福祉組織の経営に関する理論と方法、福祉サービス利用者の権利擁護

【最近の社会活動】

静岡市社会福祉協議会「経営適正化検討委員会」委員長、東京都渋谷区社会福祉協議会「地域福祉活動計画策定員会」委員長、東京都渋谷区社会福祉協議会アドバイザー、山梨県大月市社会福祉協議会アドバイザー、静岡県・香川県・愛媛県コニュテイソーシャルワーク実践者養成研修講師、香川県丸亀市社会福祉協議会「生活困窮者自立支援モデル事業」アドバイザー、栃木県市貝町「地域福祉総合計画進行管理委員会」アドバイザー、山形県鶴岡市「地域福祉計画」策定アドバイザー

【主な著書・論文】

「地域福祉実践の視点と方法」（共著）東洋堂企画出版、「権利擁護の仕組みと課題～認知症高齢者の権利擁護の視点から～」北隆館

（午後１時から午後３時３０分まで）【小地域福祉活動者の集い】

▽分科会１「見守り・支え合い活動」（会場：山口県総合保健会館２階　多目的ホール　定員 800 人）

「私たちの活動を継続していくためのヒントとは？
～高齢化や担い手不足をこう乗り越える！！～」

実践報告者：下関市豊城東自治会　自治会長　竹　下　明　生　氏
山口市明治西地区老人クラブ　むつみ会　（発表者調整中）
山口市ゆたかな串を育てる会　会　長　藤　井　真　哉　氏
コメンテーター：特定非営利活動法人 日本地域福祉研究所　主任研究員
元静岡英和学院大学コミュニティ福祉学部　教授　青　山　登志夫　氏
コーディネーター：山口県立大学社会福祉学部　学部長　草　平　武　志　氏

≪目　的≫

地域課題が複雑多様化する中、多様な方々（団体）が地域で活躍する姿を見聞きするようになりました。一方で少子高齢化の影響で活動主体自体も担い手不足や後継者問題に頭を抱えておられることが少なくありません。こういった中、地域の困りごとに対し、住民主体で効果的に働きかけていくためには活動への参画者の確保のみならず、組織体制を工夫し、効率的に活動をしていくことが求められます。そこで、あらゆる角度から地域福祉活動を先導しておられる方々に実践報告をいただき、地域資源を最大限に活かし、組織として効率的に活動を行うためのヒントやひとりが抱える問題を地域の問題として捉えていく視点や方法を会場の皆さんと一緒に考えていきます。

≪実践報告≫

①「みんなの暮らしを支える自治会」
～住み慣れた地域でずっと暮らしていくために～（仮題）

報告者：下関市豊城東自治会　自治会長　竹下　明生　氏

高齢者、お一人様等を対象に、話し相手、電球などの取り替え、水回りの簡単な修理、庭掃除、庭木の伐採、買い物、簡単な家具の異動など身近な困りごとの助け合い活動をしています。また自治会組織の中心に福祉推進の企画、新しい活動計画の策定等を行う福祉推進委員会を位置づけ、自治会の下にはサポート隊、ふれあい・いきいきサロン、リフレッシュ豊城東（自主活動グループ）を置き、支え合いの強化に努めておられます。そこで今回は、ひとりの困りごとをどのような視点で捉え、活動を実践されているのか、自治会活動を効果的に運営していくための工夫点をお話いただきます。

②「地域で育む助け合いのこころ」～２０年に及ぶ高齢者見守り活動の取組から～（仮題）

報告者：山口市明治西地区老人クラブ　むつみ会　（発表者調整中）

老人クラブへの加入率が全国的に減少している中、むつみ会への加入率は５６％を超えています。児童登下校の見守り、サロン活動、資源ごみの回収、防犯夜回り、施設訪問等の地域貢献活動を幅広く行う中、高齢者見守り活動の歴史は古く、約２０年前から会員相互で始め、５年後には会員以外の高齢者も含め、民生委員・児童委員、福祉員、ボランティア団体と連携しながら今日に至っています。そこで今回は、継続して活動していくための工夫や互助の仕組みを地域で作っていくためのヒントをお話いただきます。

③「住民の力で地域を守る」～みんなの力を結集して取組むまちづくり～（仮題）

報告者：ゆたかな串を育てる会　会長　藤井　真哉　氏

ゆたかな串を育てる会は、地域の高齢化・過疎化が進行する中で、行政に頼ることなく、住民が支え合い、集落を超えた地区全体の自立をめざして地域自らが組織を設立されました。高齢者ができるだけ地域に住み続けられるように見守り声かけネットワークを組織したり、山間地農村の田園風景の整備、大学生や地域外との積極的な交流を行っています。そこで今回は、地域の資源を活用したまちづくりの方法や住民が主体となった活動の展開方法をお話いただきます。

▽分科会２「身近な集う場づくり、居場所づくり」
（場所：山口県総合保健会館２階　第１研修室　定員 100 人）

「地域を活性化させるサロンづくり
～組織がつながり、協力と工夫でできること～」

実践報告者　：宇部市「吉田いきいきサロン」　代表　吉田　倫子　氏
　　防府市「たんぽぽの会」　代表　中村　繁子　氏
講　　師　：九州大学大学院人間環境学研究院　教授　高野　和良　氏

≪目的≫

「ふれあい・いきいきサロン」の取り組みは、サロン活動から新しい助け合い活動や地域づくりの活動に発展するなど、地域社会において様々な波及効果をもたらしています。他の協力を得てサロン活動の実践に取り組む方々から、地域へのおもいや活動における工夫、地域の中での協働の取組の秘訣などをお話いただき、サロン活動の楽しさや魅力を再確認するともに、地域におけるサロン活動の可能性を共有します。

≪実践報告≫

①「地域の協力で作るサロン」～ 協 力 す る こ と で 広 が る 可 能 性 ～（仮題）

報告者：宇部市「吉田いきいきサロン」　代表　吉田　倫子　氏

自治会、民生委員・児童委員や福祉員、社会福祉法人等の協力を得ながら、話し合いで運営されています。協力して運営するようになった経緯や協力があるからこそできること、また、地域の人がサロンに来やすくなるような工夫などをお話ししていただきます。

②「地域の資源を活かしたサロン」～ 地 域 に 根 付 い た サ ロ ン の 企 画 ～（仮題）

報告者：防府市「たんぽぽの会」　代表　中村　繁子　氏

自治会の理解と協力を得ながら、市の出前講座の利用や時には施設訪問など地元のさまざまな地域資源を活用した企画をされています。地域性を活かし、地域で行った取組やサロンを住民の方に知ってもらう工夫などをお話していただきます。

【講義】

講師　：九州大学大学院　人間環境学研究院　教授　高野　和良　氏

それぞれの地域社会の特徴をふまえて、人が集まることで広がる可能性に目を向けつつ、今必要とされている地域福祉の仕組みのひとつである居場所としての集いの場が地域社会にもたらす効果を、県内のサロン活動の事例を挙げつつ、お話していただきます。

【情報交換】

講義や実践報告を受けて、参加者のみなさんに、自分の地域のサロンの活動内容や魅力、工夫やアイディア、困っていることなどを意見交換していただき、サロンのような誰もが気軽に集まることのできる場の意義を再発見し、地域に必要な集いの場、より人が集まり楽しく活動していける方法を参加者で話し合います。